

令和元年度 医療法人稲生会（札幌市）における「障害者の生涯学習」に関する取組

医療法人稲生会について

- ・平成25年開設。「困難を抱える人々とともに、より良き社会をつくる」を理念に掲げ、3つのD（Diversity【多様性】 Dialogue【対話する】 Design【デザイン・創造する】）を大切に取組を推進。
- ・在宅で人工呼吸器等の高度な医療的ケアを必要とする重度の障害を有する患者の生活を支援するために、訪問診療/訪問看護/居宅介護/短期入所/相談支援事業を実施。
- ・医師、看護師、作業療法士、理学療法士、言語聴覚士、社会福祉士等の多職種の職員とともに、医療のみならず保育、療育、教育、社会参加、両親・兄弟姉妹の支援など一体的なサービスを提供。
- ・法人開設以来、「みらいつくり学校」と銘打った生涯学習活動を展開。患者家族とともに当事者が主体となり、学び、活躍できる機会を提供。
- ・平成30年8月から「みらいつくり大学校」を開設。高等教育や生涯学習の機会が少なかった重度肢体不自由の障害者を対象とした学校卒業後の学びについて実践研究を開始。

【研究プログラム】

テーマ：地域共生社会の実現

- ・リサーチフェローとリサーチアシスタントとともに研究チームを組成
- ・障害当事者の視点に基づく研究活動を展開する
- ・研究テーマ例：
「ベスト・オブ・多目的トイレ」
「リアル障害当事者目線
～介助の目線・当事者の目線～」
「べてるの家に学ぶ視察見学」等



【学びの研究プログラム】

テーマ：重症心身障害者の学び

- ・重症心身障害者を1名モデル研究生として選出
- ・研究生とリサーチアシスタントと研究チームを組成
- ・チームで研究活動を展開
- ・リサーチミーティングで研究テーマを検討



「みらいつくり大学校」による 学びの構成・特徴

【参加形式：受講生/リサーチフェロー】

- ・平成30年度みらいつくり大学校修了生の重度障害当事者。学習プログラムの企画運営を担う。
- ・地域共生社会の実現をテーマに障害当事者の視点に基づく研究活動を展開する。

【学習サポート体制：リサーチアシスタント】

- ・稲生会 事業推進担当スタッフ。多職種（医師、看護師、理学療法士、作業療法士、言語聴覚士、介護福祉士等）にて構成。リサーチフェローや受講生の研究活動をサポート。
- ・自らも研究当事者として重度障害者とともに研究活動を担い互いの学びの相互作用について検証を行う。

【コーディネーターの配置】

- ・高等学校及び小学校教員経験者。人間の生活全般を認識対象とした家政学教育に関心を抱き、家庭科を専攻。赴任先の高校の寮で学生と寝食を共にしてきた3年間の経験を有する。
- ・学習プログラム開発と連携協議会の議論をつなぎ研究全体をコーディネートしながら研究成果をとりまとめる。

【関係機関・団体の連携：連携協議会】

- ・人工呼吸器等の高度な医療的ケアを日常的に必要とする障害者や重症心身者の学びの内容や方法論、その他支援体制の在り方について研究協議。
- ・大学教員、教育委員会指導主事、特別支援学校教員、障害当事者団体、事務局で連携協議会を組織。